

2016.10

留学期間中のレポート①

フランス（リヨン第三大学）

飯間陽佳

●日常生活

リヨンのサン・テグジュペリ空港に到着し、空港のホテルを予約していたので、荷物を取り空港を出ました。しかし、ホテルと逆方向の出口に出てしまい、迷っていたところ、近くにいた男性がホテルまで連れて行ってくださりました。翌日、大学近くのホテルに移動しましたが、ここでもまた道に迷いました。すると、若い女性がホテル付近まで案内して下さり、とても助かりました。この様に、到着早々街の人々の親切さに触れることができました。

リヨンは食の街とも言われていることもあり、食べ物は本当に美味しいです。何度か海外にいった経験はありますが、こんなに食べ物が口に合う国は初めてでした。美しい教会や建物、山や湖などがたくさんあり、感動の日々です。日曜日には marché(市場)が盛んでとても新鮮な気持ちで生活できています。

しかし、良い事ばかりではなく、困ったこと、カルチャーショックもたくさんあります。まず、基本的にフランスの手続きは雑です。日本では考えられないことが多々起こります。入寮してすぐ使えるはずのネットが繋がらないというトラブルが起きました。毎日受付にネットを使いたいと頼み続け、ようやく使えるようになったのは入寮日から約1週間後でした。更に本来なら入寮日に部屋の鍵と一緒に渡されるはずのカードキーも結局2週間後に受け取りました。また、銀行の口座開設の際もトラブルが起きました。口座開設、口座への入金まではスムーズにいったのですがいざ、お金をおろそうとすると、カードのコードが分かりません。銀行に問い合わせると、コードは郵送したので待つようにとのことでした。1週間待っても来ず、さすがに手持ち金も尽きかけていたので直接もらいに行こうと思い、銀行へ行きました。しかし、郵送でしか渡せないと言われ、もう一度送るのでさらに1週間待つようにと言われました。そんなに大切なものをなぜ直接手渡しできないのか、1回目に送ったコードはどこへ消えたのか、そもそも大切な書類をなぜ普通郵便で送るのか、日本では考えられないことが起こり過ぎて、呆れてしまいました。その後、無事コードは届きましたがフランス人の雑さには驚かされる日々です。完璧すぎる日本に慣れていることもあり、初めは、いちいち苛立っていましたが最近では、これがフランスだ、と考えられるようになってきました。と同時に、自分で何とかするしかない、待っていても問題は解決しないということを身に染みて感じました。

切符を買う、レストランで注文をする、スーパーで買い物をする、自分がほしいものを伝える、今までは難なくこなしていたことがこんなにも難しいものかと感じました。しかし私の拙いフランス語でも伝えようとすれば伝わるし、聞こうと耳を傾けてくれます。また、彼らの話すスピードは速く、全てを理解することはできませんが、その雰囲気や状況で不思議と理解できるもので

す。この留学生生活が終わる頃には、ほぼ理解できるぐらいまで成長することが目標です。

●学校生活

リヨン第三大学には留学生がたくさんいます。他国からの留学生も日本の他大学からの留学生もフランス語のレベルがとても高いです。最初は、優秀な人と自分を比べては落ち込んで、の繰り返しでしたが、今はそれを良い刺激として受け取り、焦らずに自分のペースで学んでいきたいと思っています。

到着してから1か月が経ちました。フランス人の友達もできフランスの生活にも段々慣れてきました。健康面、安全面には十分注意を払いつつ、たくさん経験し、吸収し、そして楽しみ、充実した留学生生活を送っていきたいと思います。

